



惠

10
俚諧文庫
土

迹有為

^ 5
1139
40



冊 5
1139
卷 10



張家莊...
...
...
...
...
...
...
...



Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of characters.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of characters.

あはれなる心
あはれなる心
あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心
あはれなる心
あはれなる心

いかりさきの海はちかちか

いさぎいともそそいさるま中絶

さぬくににさく海はきき海は水

聖丹

ちくちく海も多しぬせの海は水

枝旌

旅をけぬ人を去るも海は水

竹旌

愛の戸柳は寝おろしお

柳旌

松ヶけのおふ隈をさ月は水

杏旌

今もぬれし中もさるる海

秋旌

秋葉落くおろし海は水

杏旌

ふくたもさるる海は水

杏旌

多し玉帆まつ紙葉も明石灘

杏旌

眼当り山は雲のうらま

秋旌

もれ思ふおろし海は水

杏旌

身もさるる海は水

杏旌

月満くも秋は水もさるる

杏旌

うらまを海は水もさるる

海旌

夢つとれ 穠くちあき。 白乃庵

秀雄

鬼あらしとるる 竹さきし

寛雄

神つとれ 内とれ ちあきし

務良

神さきし 葉 首もあき

綾崎

者一抄

夢つとれ 穠くちあき。 白乃庵

鬼あらしとるる 竹さきし

神つとれ 内とれ ちあきし

夢つとれ 穠くちあき。 白乃庵

鬼あらしとるる 竹さきし

神つとれ 内とれ ちあきし

夢つとれ 穠くちあき。 白乃庵

鬼あらしとるる 竹さきし

神つとれ 内とれ ちあきし

夢つとれ 穠くちあき。 白乃庵

一

井

井

井

一

井

井

新しきやまふ田かよもさしき

井

まじくも新しき手敷かくらぬ

一

ふれりしにゆりしとさしき

井

海に渡るも新しき糖らまきり

一

まもるれ新しきさしき種井

井

まじくも新しきも新しき

一

新しきも新しき月新しき

井

新しきも新しきふ新しき

一

出代り新しきふ新しき

井

物ら入り新しきふ新しき

一

的らり新しきふ新しき

井

のらり新しきふ新しき

一

新しきも新しきふ新しき

井

新しきも新しきふ新しき

一

新しきも新しきふ新しき

井

日傘て新しきふ新しき

井

あつふむー千えそも源く

一

きくむくのちけぬ尺ち

井

よくゆへ集りつゝあめのおこ

一

解りまれとさの舞の歌

井

さるもちも拙く露ひめさし仲る

一

書り大けあしくちぬわさき

井

解解のくはる海く舞る月

一

よるけいひさくちく山く

井

屋くさつれ方れさくくく屋様堂

一

屋くさつれ方れさくく屋様堂

井

店屋のあひかきりにち地まろき

一

さるもちも拙く露ひめさし仲る

井

一枝のちやけのさるもちも拙く

一

あつふむー入相の鐘

井

世故句々々

人々傳傳々々々々々々々々

如羽 素山

書初也けやあれすややあれす

上毛 梁堂

明々あは待々々々々々々々

昔作 美谷

くくくくあは待々々々々々

如文

書稿也あは待々々々々々

佳音

あは待々々々々々々々

升賀

千歳千のくくくくくく

曠海

清隆也ゆくき妹うきやん

大坂 杜海

以候つてもや初々くあふ日の中

甲斐 休良

まは来やふれ出さくふ海老の松

在城

とれい待うちうあれも

上毛 玄春

君々代を初々あ車りの性ああ那

管連

草草のまを門ふあうて初々あ

角丈

帳々のあまけりきあま

勇賀

七種とて... 秋... 花... 好

菊唐

山... 日... 舟... 小松... 曳

半舟

くれ... 舟... 舟... 舟... 舟

梅舟

よ... 舟... 舟... 舟... 舟

一舟

垣... 舟... 舟... 舟... 舟

好文

梅... 舟... 舟... 舟... 舟

菊唐

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

下主 其翼

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

園三

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

山居

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

一秀

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

費平

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

香以

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

学友

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

原路

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

五峰

舟... 舟... 舟... 舟... 舟

未足

かたしは霞ふさぎの程の毛さる柳の如
き少や赤丸もさうのうの糸色

と毛 一 柳

海見橋上

赤丸小眼の境りぬくや少しつ
ぬきとる旅のしだくやまの香
雪しけぬ杖しゆらる小坂の
形しゆらる雪のまじりやまの香
此のうねる雪のまじりやまの香

と毛 見 岳
月 阿
花 兄

雪解りの水さるむや絶層
湯さるく水や赤丸の如の雨
山さるや雪のまじりやまの香
赤丸の如や杖しゆらる雪の香
くつ雪や何れもさる雪の香
雪さるくや杖しゆらる雪の香
柳さるくや杖しゆらる雪の香
雪さるくや杖しゆらる雪の香

柳 古 棠
尾 士 前
雪 月
柳 古
赤 丸 地
雪 丸 牛
柳 丸 堂
雪 堂

色なき深増のちさつ〜

一 鯨

雪ふれりも〜

上毛 蟻 堂

お〜〜

茶 氏

くは〜

梅 逸

雪〜

下法 毒 毒

寺〜

今 仁

一〜

棠 曉

あ〜

下法 途 々

泡〜

丙 山

立〜

雷 驚

那〜

松前 小 唯

無〜

下法 月 杵

那〜

上毛 宋 海

お〜

耀 水

〜

管 之

〜

阿波 羅 村

とくしあしむの動もえりり

とくしあしむ
柏 翠

又しあしむの花のふりりり

文 女

月のあしむのあしむり

薫 女

此よりあしむの帆もあしむり

干しあしむ
越 川

あしむのあしむり

有 柳

あしむのあしむり

秀 奇

あしむのあしむり

とくしあしむ
天 賦

あしむのあしむり

弘 湖

海女

あしむのあしむり

おほ
由 岐 雄

あしむのあしむり

梅 磨

あしむのあしむり

甘 茶

あしむのあしむり

宇 山

あしむのあしむり

森 好

あしむのあしむり

松 甫

あしむのあしむり

涼 花

家土音のふさふさか〜お〜と聲の如

嘉樂

向かへらしきささるるむ〜歌き

梅屋

美さきと〜ささりや〜るの息

左竹

鈴〜の音〜れ〜や雜木の葉

只山

山〜や峰〜は〜ふ〜の音

毛居

所〜〜や筆〜〜あ〜家〜か〜

柴虫

帆柱の敷も〜う〜浦の夏

吟風

船〜〜舟〜〜眠〜〜さ〜〜う〜〜あ〜む〜

月磬

江の鳴

漁〜〜や〜〜け〜〜は〜〜れ〜〜ら〜〜あ〜む〜舟

渭川

鐘〜〜れ〜〜言〜〜も〜〜あ〜〜の〜〜中〜〜や〜〜あ〜〜む〜あ〜〜

此妻

木〜〜〜や〜〜あ〜〜を〜〜傳〜〜さ〜〜す〜〜花

沈翠

二〜〜葉〜〜や〜〜春〜〜を〜〜さ〜〜す〜〜に〜〜情

禾曉

巾〜〜〜あ〜〜れ〜〜也〜〜あ〜〜む〜〜あ〜〜む〜あ〜〜

均水

友の歌

影をかりとまふまうして水る

聖井

あつとあまの夜もかく信

一鬼

此のこけのこゝろお道もたう

安女

紙漉くまれふと年おふ

井

月をさして申のき小葉垣

鬼

尾をうへ人もすねくた

安

小鳥のうもまよと種。川施縁鬼

井

清くあつてあつとくくあて

鬼

懐中にお白し袋おはれりあ

安

舌を舌とく寸衣紋板に

井

たてあれいひまのちのちつとん

鬼

あつとあつと信一葉の是代

安

家智とあやうい海一袴着

井

二日際ふたすくくくま

鬼

清き波も怪も啼く跡は目

安

てまはあけぬあゝか

井

行くまゝ人の心もさびのこ

危

何となくふも眼後かゝる

安

まをさうゝみゆもやゝぬ程け

井

掃除しゆくまゝ庄の庭

危

まもあゝあゝとまふさゝし

安

眠るまゝとまゝとて件

井

嘸くくあゝとらり出す 歎 公家

危

松文のあゝとらりやうたさ

安

詠信をあらう終いおゝまゝは

井

やうらぬしゆかゝり村さゝ

危

かれまゝとらぬのあゝりのまゝとら

安

藤おや踏んだ村あゝとら

井

ゆゑとやゝもむしぬゝけ自の歌

危

あれもなまゝとらぬの法極

安

十一

清き水も七書かゝるてれ秋の空

井

白雲をときめくかやちかやち

亀

つらぬくもあやしく空の破と雲の層

安

かみくみくもあやしく空の層

井

空の層若さをくかやち

飛

あやしくかやち

安

ほろく

うきき樟のく枝や更衣

下松

西島

川舟もも耳ふもあやちかやち

上松

彩

更衣りやち

彩

くよくく神あやちてき

位山

若くくくくふくく

徐作

若き若の若りあやち

若泉

松島くさくさのさくらけりまきさく

上毛

半石

老慵

松島くさくさをまきくさくさのわが目

五女

葱玉

手箱ふらふらさのさくらさくら花陽重

小松女

舟のりくを待く暇や燕子さ

宝亭

水くさくさを松陰くさくさ

然山

あけのけさくさをさくさくさくさくさく

下毛

松朗

結城ふありのりくさくさくさくさく

下毛

旭高

聖粟くさくさをまきくさくさくさく

芳学

ふあきや石垣がくさくさくさく

素是

ふんふんくさくさをまきくさくさく

下毛

柳朝

あけのけくさくさをまきくさくさく

上毛

夢白

くさくさをまきくさくさをまきくさく

秀一

新くさくさをまきくさくさをまきくさく

信濃

龍源

枕くさくさをまきくさくさをまきくさく

大坂

素五

白牡丹踏くさくさをまきくさくさをまき

丁美

あつたてく 茂つたれく 牡丹

林 高

一まゝらりく 雲の如く 花の如く

花 高 親 深

つらみとく 花の如く 花の如く

花 高 未 貴

おのゝりて 花の如く 花の如く

花 高 松 雲

日あけく 花の如く 花の如く

花 高 洒 旌

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 花 外

みく 花の如く 花の如く

花 高 忙 山

あつたれく 花の如く 花の如く

花 高 梅 雲

何の如く 花の如く 花の如く

花 高 秋 高

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 兔 天

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 梅 遊

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 花 流

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 潮 雲

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 梅 林

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 友 義

花の如く 花の如く 花の如く

花 高 山 友

る情や松風もなき松の聲
ふは情や松のあはれい思ふも
子規あふ先木の一のあはれい思ふも

勝地や主

時鳥山のあはれい思ふも
うけもなき松のあはれい思ふも
初を初しなき松のあはれい思ふも
川もなき松のあはれい思ふも

下毛 大坂 栄 佐 松 左

下毛 大坂 栄 佐 松 左
下毛 大坂 栄 佐 松 左
下毛 大坂 栄 佐 松 左
下毛 大坂 栄 佐 松 左
下毛 大坂 栄 佐 松 左
下毛 大坂 栄 佐 松 左
下毛 大坂 栄 佐 松 左
下毛 大坂 栄 佐 松 左

灯の清くは掃くも静とや花の

と毛 嘉正

更なる花や移色の影のまじりき

扇風

春のうららかな空のまじりき

下口

灯の清くは掃くも静とや花の

と毛 燈

美草のうららかな空のまじりき

春分

美草のうららかな空のまじりき

と毛 燈佛

ふけのうららかな空のまじりき

と毛 燈

さうらうのうららかな空のまじりき

梅月

灯の清くは掃くも静とや花の

と毛 灯月

美草のうららかな空のまじりき

水年

美草のうららかな空のまじりき

永命

美草のうららかな空のまじりき

と毛 燈塔

美草のうららかな空のまじりき

乙 瓢

美草のうららかな空のまじりき

と毛 圃涼

美草のうららかな空のまじりき

且 雲

美草のうららかな空のまじりき

と毛 山好

ゆりしきくもは漏れん五月雨

お授

英高

舟小く青月を子月晴

風流

さみしれの如くはる余波哉

五渡

林を雨とくや昔の毫

信隆

牙残

ふたふたをどろろとくはるけきまの
おまをせしめしむらさき

登りておまをせしむらさき

依友

一帯伝わりく一玉にと舞す

用水のけしきり多かるき田

氷毒

夕月をむしりてはけり家

夏

漢氏

申すはるの宿也何やあつりき

下院

李竹

美舟お風もふさふさし

と毛

采摺

のひとまはれはくちえん今も舟

と毛

園和

美舟也美ふさふさし

夏

詠柳

帷子け小鼓清くはる月す

離宮

帷子け美ふさふさし

雲

かきりや美ふさふさし

岩房

汀砂

十一

君の代やむうしなうけ白扇 上毛 谷

そけいさのまうしなうて夏の月 鳥路

水波のて原しなうや夏の月 五休

らう湯守あまけしなう清水哉 あ房 横山

深く多た用しなうや夏けしき 下毛 子紙

あまをさうも涼かそけしなう 下毛 圃生

お母けくれてさう河の波舟哉 友竹

鳥さうしなうあまみく中の峰 弱木

あまをさうしなうあま 下毛 茶峰

あまをさうしなうあま 下毛 茶峰

あまをさうしなうあま 下毛 茶峰

あまをさうしなうあま 下毛 茶峰

あまをさうしなうあま 下毛 茶峰

あまをさうしなうあま 下毛 茶峰

あまをさうしなうあま 下毛 茶峰

秋の歌

すさきふりぬ風あはれおのる

聖井

自落くくくくくくくく

取橙

今も来向の神もあはれおのる

子紹

瑞中へよる物のかき

井

小書にけりてあはれおのる

橙

山へ傳へてあはれおのる

紹

眠るるはるまもはしるあはれおのる

井

隅へくくくくくくくく

橙

村中傳へてあはれおのる

紹

あはれおのるくくくく

井

解へてあはれおのる

橙

後へてあはれおのる

紹

くくくくくくくく

井

あはれおのるくくくく

橙

井

井

藤壺流くをりもすまひなれあき

紹

秋の懐りのまき梅給る

井

くくくくくくくくくくくくくくく

権

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

紹

ひのきききききききききききき

井

かきかきかきかきかきかきかき

権

くくくくくくくくくくくくくくく

紹

ももももももももももももももも

井

あつあつとととととととととととと

権

まけまけまけまけまけまけまけ

紹

一細細入くはくはくはくはくはく

井

地獄赤の赤りれ赤りれ赤りれ赤り

権

確出板くくくくくくくくくくくく

紹

けけけけけけけけけけけけけけけ

井

何ちちちちちちちちちちちちちち

権

掬ひはちちちちちちちちちちちち

紹

眼_こまはまのまけくもはなれつて

井

埃_りれ多き津_りの煙_りの血

橙

明_るる水_み又_も晴_りのまゝる入_る川

紹

あや_くく_りり傳_る花_らけもろ

井

微_雨あ_る家_のあ_る松_もさ_る上_る

橙

け_も小_つけ_も一_籠の鮎

紹

女_は黄_白経_く

女

立_秋郊_外

女

源_しき_も彩_く也_五甫_とり_て

木

野_の家_れ数_あひ_くり_の秋

羽

秋_くま_もは_るく_も也_古用_之

一

早_も也_早尾_の布_も向_{あり}

吟

也_月の_あり_まれ_と早_の也

名

辨

長きくも花の輝く如く河

水接

岱南

とりの川に架かる竹の葉の如く

素竹

風を渡る水と花を渡る一葉の如く

素碩

ふいと来りて風お垣越す如く

翠玉

葉おしきりてさくさく相一葉

龍洞

一葉つゆめりて如く相如

芳泉

水際のとくしやうり秋の如

繁史

その影さすもさすも秋の如

風籬

松と紅葉の如く秋の如

枇杷

心くたしうりて終く如く

完語

葉の如く加ふ如く

村旗

のーも終い憂へて西に

旗

多しとく人の如く

左一

雨つゝも如く

飛方

廣尾

色あつた如く

春湖

三番

日の入る月の出る花の落

春松

空の渡る海も舟り舟の空

お模 子巴

ふもやふもいふもたふもつゆ

卓雅

てらも物も一粒つに子れも

ま 高崎

や路のそよふそよふささひもあふも

ま 待公

あふも月もやふもふもささ家の内

ま 五雀

かきまふもさか入る所もあふも

ま 三楓

舞の石の玉もささふもあふも

機中 壺吏

新の物やふもささふもあふも

桑治

ハ新也沖ふもささふもあふも

南池

風もささふもささふもあふも

ま 萱雅

あふもささふもささふもあふも

ま 左行

あふもささふもささふもあふも

左系

あふもささふもささふもあふも

市守 佐

あふもささふもささふもあふも

岩山

あふもささふもささふもあふも

思樂

さしてゆくは 稜彫とあるに舟の月 不夜

待宵の友とありたり 虫をくら 翫之

音のく 野分の阿とれ内表は 柳西

のひる 水のけりもあしやきりす 尋香

岨峰へ 出るとにのりたりしす 福堂

新に けりし 音かしくして産の出 良大

やと 葉もぬくもぬきぬや 濱りす 而耕

世に 重くもぬきぬけ けやもしくらる 有言

清く 中うらなむと信 一石れ新 風尾

池う しまるるも方のまは尾ら 可笠

更く 水お岩の底まゆる 岩のた 香囀

音 一きる水音 聆らるる 湖柳

やと くるもえ 枝よれよる 葉の花 文よし

とく 菊や 枝よれあらり 一さる 友松

ふと 葉也 瞬のう けりす 新 梨香

菊も 人のか けりす けりす 友甫

一鉢ハ机のそばやきくれんぬ

桐塘

あふとくくくくくくくくくくくくくくく

卜仙

とく徳人の吐くことすくに

大

けり秋や川をくくくくくくくくくくく

蓮宇

くくくくくくくくくくくくくくく

例

くくくくくくくくくくくくくくく

例

くくくくくくくくくくくくくくく

例

くくくくくくくくくくくくくくく

例

冬の節

眠おひあふくくくくくくくくくくく

茅草

鴨のこもくくくくくくくくくくく

一羽

をくくくくくくくくくくくくくくく

野井

くくくくくくくくくくくくくくく

草

くくくくくくくくくくくくくくく

井

あふくくくくくくくくくくくくくくく

井

山をこゆるはさしき きた院音ら
針さくはるるらんさりよ家
しんまふふふふふふふふふふ
舟く針つりす町屋さしり
きくはるるあけし持くはるる
あのみくはるるあけし持くはるる
帳端す傳暖の屋さしりさのさし
あつらん 傳の給るさしり

三

のしをむ回らハ部あふふふふ
甲ふ巡りしちさふかきかぬ
木の敷もふれとささきさの花
くけりかきくあしけささき
水ささき 藤戸建ささきささき
船起さくれいあさささき
のしをむ回らハ部あふふふふ
くらん 傳の給るさしり

三

後海を例の〜〜〜
 江〜〜〜
 海〜〜〜
 鳴羊〜〜〜
 下詔の詔〜〜〜
 疎〜〜〜
 漏〜〜〜
 蘇明〜〜〜
 井 春 学 丹 春 学 井 春

上〜〜〜
 中〜〜〜
 下〜〜〜
 二〜〜〜
 三〜〜〜
 四〜〜〜
 五〜〜〜
 六〜〜〜
 七〜〜〜
 八〜〜〜
 九〜〜〜
 十〜〜〜
 井 春 学 丹 春 学 井 春

あふくさく

まろくしたりわの中也初京文陽

とくねくやなまよとあし公来

時あふりしとまらふと山路武昇何

とねんかおまふとまふとふ候候

まふとまふとまふとまふ音洞

時あふりしとまらふとまらふ春山

月あふくさくさくさくさくお様

口あふりしとまらふとまらふ安女

松あふりしとまらふとまらふ下法

花あふりしとまらふとまらふ江一

山あふりしとまらふとまらふ乙雄

とくさくさくさくさく上も

あふりしとまらふとまらふ半酒

とくさくさくさくさく老圃

何となくくもさしむつ冬田可也

松

昔山の朝も又ゆる小葉正難

葉分

ささかしの智恵つる朝也小葉の

不老

千折入堀の朝もゆるる松の

松翠

十月や電のもやれし生るる

松翠

山賊の時もくおまゝ一葉の

梅野

あゝ松もたうて標もや海山

水糸

月をれあうり松もいゝ葉

河山

何となく松葉の〜お月〜

梅裡

〜松葉の〜お月〜

一朗

〜松葉の〜お月〜

世之四

〜松葉の〜お月〜

龍甫

〜松葉の〜お月〜

一山

〜松葉の〜お月〜

一室

〜松葉の〜お月〜

逸良

〜松葉の〜お月〜

柳蕉

新くやをうてらふくかきうる

大虫

水仙也家の物を取むりしうた

市猿

水仙ア〜〜〜ヤ 箒 先

梅々

〜〜〜〜〜あ〜〜〜あ〜〜あ

弥園

〜〜〜〜〜人〜〜〜人〜〜〜人

弘美

〜〜〜〜〜れ〜〜〜れ〜〜〜れ

葉古

扱〜〜〜に叶〜〜〜れ〜〜〜と

厩山

の〜〜〜〜〜た〜〜〜た〜〜〜た

紫若

か〜〜〜を〜〜〜れ〜〜〜し〜〜〜

宋宮

扱〜〜〜〜〜れ〜〜〜れ〜〜〜れ

多島

扱扱〜〜〜の〜〜〜あ〜〜〜

奇之

扱〜〜〜〜〜れ〜〜〜れ〜〜〜れ

露屋

扱〜〜〜〜〜れ〜〜〜れ〜〜〜れ

務云

扱〜〜〜〜〜れ〜〜〜れ〜〜〜れ

直明

扱〜〜〜〜〜れ〜〜〜れ〜〜〜れ

一龜

扱〜〜〜〜〜れ〜〜〜れ〜〜〜れ

茂精

聲り此より月七の夕子

音末

とふらふらへむゆとふらふら小松樹

吾柳

新波は也花の雪の雪の雪

相林

湯ふらふらとふらとふらとふらとふら

木上

橋ふらふら山とふらとふらとふら

清音

和ふらふらとふらとふらとふらとふら

自長

手ふらふらとふらとふらとふらとふら

士尊

とふらふらとふらとふらとふらとふら

可也

くつ香や鐘けけけけけけけ

茶井

西へくつと香ふらけけけけけ

香流

吾れ香あふらふらふらふら

紫雪

流林ゆらゆらゆらゆらゆら

六窓

峰りゆらゆらゆらゆらゆら

如云

松もゆらゆらゆらゆらゆら

花旌

雪れ新ゆらゆらゆらゆらゆら

香笑

さゆらゆらゆらゆらゆらゆら

香云

月夜の如き... 水

くけいの... 水

朝風如く... 水

... 水

... 水

か... 水

思... 水

... 水

毛

水

水

水

水

水

水

水

懐... 水

大... 水

... 水

... 水

... 水

... 水

... 水

... 水

水

水

水

水

水

水

水

水

ささげの葉をよみしるる

茂翠

ささげの葉をよみしるる

青吟

名月や花をよみしるる

花雪

紫ささげの葉をよみしるる

青旌

破ささげの葉をよみしるる

一程青

ささげの葉をよみしるる

青旌

ささげの葉をよみしるる

青旌

ささげの葉をよみしるる

青旌

かまきりしるる

山旌

木のうけしるる

泉旌

ささげの葉をよみしるる

浅旌

ささげの葉をよみしるる

勝旌

ささげの葉をよみしるる

池旌

ささげの葉をよみしるる

倉旌

ささげの葉をよみしるる

与旌

ささげの葉をよみしるる

松旌

たうれあきむしとあてやある
 山いふくもくううや田を飛
 野れ家の垣根とくうあ野きや
 そもめき、ぬの中あははくし
 なるくし思ふ物りの巨魁武
 昔の酒旅のゆしとやけけ
 ふくまふしとあまる枝の地、水
 ちあはかけくくはや、土用干
 崎 旌
 き 旌
 寺 旌
 野 旌
 寺 旌
 村 旌
 池 旌
 濱 旌

土の味とぬきうのくは福屋きか
 人うまふぬきとらふおあ子の花
 二、愛くし日れきくし福きくしぬき
 ころくしと日軍ふしけおあ可那
 竹ふしとふれもふとあやとくは
 角ふしとくは縁又さくし巨守
 森 旌
 秀 旌
 光 旌
 行 旌
 竹 旌
 枝 旌

追加

一 心も是れをくれり多き者共哉

梅 裡

平湯へすくくともはもはも

聖 井

自れはる指ゆり指とよき

井 裡

ふらふらとくくくくくくく

井 裡

ほろろくくくくくくくく

井 裡

湯ふらふらの湯ふらふら

井 裡

けけけあへりけけけあへり

井 裡

けけあへりけけあへり

井 裡

あへりけけあへり

井 裡

あへりけけあへり

井 裡

あへりけけあへり

井 裡

あへりけけあへり

井 裡

あへりけけあへり

井 裡

あへりけけあへり

井 裡

とくぬきとてけちしてゆく陸子
くつ年迄まゝ人の世をうつき
吟をいむまゝくそびやくんも移く
ほすのれくまの骨もさやうなる
昔後をうにまの静の秋をぬき
くくくまゝくく皆伸ひまゝく
眼がけはまゝのまゝ後もまゝあゝん
ゆういまゝくくまゝけぬまゝい

井 井 井 井 井 井 井

あつたまゝく初めは娘のまゝく
くまゝくくくくまゝくくまゝく
くまゝくくくくまゝくくまゝく
柚味の味のまゝくくまゝく
眠るゝあゝのまゝくくまゝく
わくくくまゝくくまゝく
ほくくくまゝくくまゝく
あゝくくまゝくくまゝく

井 井 井 井 井 井 井

隣の〜結いぢを名 鳴る 礎

ふれ〜お人ふあ〜お子記

祿宜持持の〜おまよ〜〜〜の〜

鳴る〜〜〜〜〜〜〜〜〜

も〜〜〜〜〜〜〜〜〜

鳴る〜〜〜〜〜〜〜〜〜

井

野

井

裡

井

野

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

